

# こんな子どもいませんか？～気になる子どもへのかかわり方～



日 時：平成25年8月25日（日） 10:00～11:40  
会 場：吉敷地域交流センター 講座室  
講 師：こころの相談室「わらべ」室長 中村 津峰子 氏  
参加者：31人

集中力が続かない、人とのコミュニケーションがうまくとれない、学習能力の一部に極端に苦手な部分があるなど、いわゆる「発達障がい」についてのとらえ方や、そのような子どもたちへのかかわり方などについて、講師の中村先生からお話していただきました。

## 【中村先生のお話から…】

### 1 発達障がいについて

- 学校現場では、AD/HD（注意欠陥多動性障害）、アスペルガー症候群、LD（学習障害）の3つが主に取り上げられる。文科省が発表している数値に比べ、はるかに多くの子どもにその傾向が見られるというのが、スクールカウンセラーをしてみた実感である。
- 「発達障害」の「害」は、悪しきイメージがあるため、平仮名（がい）で書かれることが多い。「碍」が使われることもある。  
最近では、杉山登志郎氏が「発達凸凹」という言葉を提唱している。



【講座の様子】

- AD/HD、アスペルガー症候群、LDは重複していることが多い。最近では、これらを区別しない傾向も出てきている。

### 2 発達障がいは病気ではない

- 人間には誰にも得意なものと苦手なことがある。「発達障がい」は、脳の機能の凸凹により、すごく得意なところとすごく苦手なところが入り乱れている状態といえる。
- 「発達凸凹」は誰にでもある。診断は社会生活を送る上で支障が生じたときにつけられるもの。
- 年をとって足腰の衰えや目や耳が悪くなる「老化」は、全員がなるので「障がい」とは呼ばれていない。発達障がいは単に数の問題でもある。

### 3 苦手なことに対しては・・・

- 大人は、できることとできないことの差が激しい子どもに対して「これができるのに、なぜこれができないの！」というとらえ方をしてしまいがち。「これができないのに、よくこれができたね！」とはあまりならない。その結果、「できないのは、怠けている、ふざけているからだ」というとらえ方をしてしまう。

○努力することは大事であり、少しでもできないことができるようになることは精神衛生上、非常によいことである。しかし、それは個人内のことであり、外部基準に到達すべく克服を目指す、脳に多大な負担をかけてしまう。

「得意は伸ばす、苦手は工夫で乗り切る」といった得意能力を中心に据えていく考え方が大切である。

## 4 発達障がいの特徴

○発達障がいの脳は、速度が緩やかでも確実に発達していく。

○生き方、その他が不器用なため、たいへん疲れやすい。学校や職場は複雑な情報で溢れており、発達障がいの脳には過酷な環境である。疲れた脳を休めてあげることが大事。

○不器用さゆえに、**幼児期に母子間の情緒的なやりとりのズレが生じやすくなる**ことがある。



## 5 発達障がいの告知と子どもへの対応

○「説明がつく」ということは心の安定につながるの、告知によって自分の特質を知ることは、とても大切である。しかし、伝え方によっては自己評価を下げることになってしまうので、告知は慎重に丁寧に行わなければならない。自分が自分の状態に疑問を持ったときがひとつのチャンスである。

○思春期になると、それまでに受けた、本人にとって理不尽な体験がフラッシュバックして苦しむことがある。これを防ぐためには、早期に療育的な関わりを開始することが望まれる。不幸にして二次障害が生じたときには、本人の特性を正しく理解して、その苦しみを否定せず、ともに具体的な対処方法を考えていくことが必要。

## 6 ペアレントトレーニングについて

○アメリカで開発された技法で、主にAD/HDの子どもをもつ親のための子育てプログラム。6人程度でのグループワークを基本隔週で全20時間（1回2時間×10回）行う。



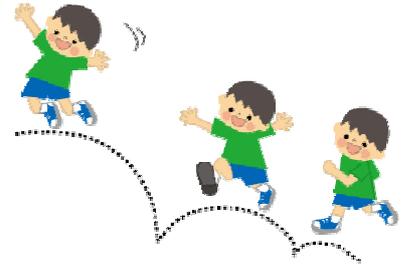
### <ペアレントトレーニングの流れ>

- (1) 子どもの特質を正しく把握する。そのために、子どもの気になる行動を客観的に詳しく見、かつ記述する。
  - (2) 「子どもの言動の良いところを見つけてほめる」ということを徹底的にトレーニングする。「ほめる」とは「あなた（子ども）がしているよい行動に（親である私は）気づいているよ」ということを子どもにフィードバックしてあげることである。よって、「ありがとう」もほめることになる。子どもがしていることを当たり前のこととして流さずに捉えてほめる。
  - (3) ほめることがほぼ完璧にできるようになったら、子どもがわかりやすい「指示の出し方」や「制限の入れ方」をトレーニングする。正しく指示を出すことと、きちんとほめることが完璧にできたら、制限を入れることはほとんど必要なくなる。
- ペアレントトレーニングでは、望ましくない行動を「問題行動」ではなく「対処行動」と考える。扱う対象は言動で、子どもの人格にはふれない。だから、「いい子だね」というほめ言葉はペアレント・トレーニングではNG。「あなたのその言い方はいいね」などが良いとされる。

- 発達障がいの子に対しては「わかりやすさ」がとても大切である。ペアレントトレーニングは、大雑把に言えば、一般の子育てのきめを細かくしたようなものであり、発達障がいの子どものみならず、すべての子どもの子育てに活かしたい。

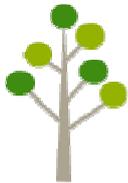
## 7 本の紹介

「発達障がいの子どもたち」「発達障がいのいま」  
(杉山登志郎 講談社現代新書)



## 8 参加者からの質問事項

- ペアレントトレーニングの受講料は？
  - ・ 2万円で全額前納（ペアレント・トレーニングは、宿題は必ずしてくること・遅刻しないこと・休まないことが原則で、けっこう大変。前納はドロップアウト予防のための方策）
- ペアレントトレーニングの対象となる子の年齢は？
  - ・ 下は3、4歳から思春期前が好適年齢。中学生・高校生でもプログラムの前半を中心に部分適用は可能。



受講生の方からいただいた貴重なご意見の一部を紹介します



- ★すごくわかりやすく、楽しく聞かせてもらいました。心配で不安になることが多くありましたが、子どもの成長をゆっくり見つめて対応していこうと思えるようになりました。
- ★子どもへの対応に自信がもてないことが何度もありました。今回の講習で少し自信が持てました。ありがとうございました。
- ★いつも疑問に思っていたことが、わかったような気がします。子どもにイライラせず、もう少し心に余裕をもって子育てしていけたらいいなと思いました。ありがとうございました。
- ★朝、頑張って来た甲斐が本当にありました。中村先生のお話を聞くのは3回目でしたが、何度聞いても、また機会があったら聞きたい！と思います。親が楽になり、子どもも幸せになる、こんな素敵なことはないと思います。
- ★今日は、本当に勉強になりました。私も発達障がいの息子たちがいます。夏休みに入り、日中、いっしょに過ごす時間がとても長く、イライラした時間を過ごしていました。自分と息子たちの関係も悪く、今この時に先生のお話を聞き、また改めて、新しく気持ちをゼロにして過ごしていこうと感じました。ありがとうございました。
- ★学童保育で、クラスの1割強の発達障がいなどの支援の必要な子どもとかわっています。学校で脳をフル活用した後、ホッとできる場所づくりを・・・と思っていますが、その後も、大勢の中で生きにくさをかかえている子どもたちをほめることなど、かわり方の大切さを教えていただきました。明日からひとつでも、よりよい支援をしていきたいと思いました。今日は、ありがとうございました。
- ★すごくわかりやすくとてもよかったです。ペアレントトレーニングも受けてみたいと思いました。理解されにくいこともたくさんあるので、もっといろいろな人に、かわり方が広まっていけばいいなと思いました。
- ★とてもわかりやすいお話でした。行動をほめることを実行できたらと思います。ぜひ、杉山先生の本も読みたいと思います。わが子は成長しましたが、学童で悩んでいます。ペアレントトレーニングのグループ実践例をまとめた本などの著作を望んでいます！「ほめる」という実践できる方法があって希望が広がりました。本当にありがとうございました。

- ★今日の講座はとてもわかりやすくよかったです。これからの子どもたちに対しての向き合い方を少し変えていき、子どもたちが成長していくことを願って頑張っていきたいと思いました。
- ★学童保育をしていく中で、このような子どもたちといつも関わり、今日の講義は大変わかりやすく、明日からの子どもたちへの対応もきっと変われると思います。また、このような機会があれば参加したいと思います。ありがとうございました。
- ★発達障がいの子もさんとのかかわり方はとても難しく、いつも頭を悩ませていましたが、ペアレントトレーニングの一部でもやってみようと思います。
- ★今日はありがとうございました。先生の神戸弁が、またよかったです。昨日も2人の子に怒鳴ってしまいましたが、私も悪い部分が多々あると実感しました。
- ★こんなに「目からウロコが落ちる」講義は初めてでした。たくさん自分が必要としていた情報を吸収できて、幸せな時間を過ごせました。日々、実践に向け、取り入れるよう努力していきたいです。ペアレントトレーニングをやってみたいですが・・・時間、コスト、仕事、いろいろと難しい面もありますので、検討していきたいです。
- ★もっと子どものよいところを見つけ、ほめることを習慣づけようと思いました。
- ★大変参考になるお話を聞かせていただき、ありがとうございました。なんだか心が軽くなった気がします。
- ★ありがとうございました。さっそく帰ってから、子どもとのかかわりでできることを少しずつやってみようと思います。「幼児期の思い出が幸せでない」そんなのは絶対に嫌です！
- ★5才の長男にAD/HDの傾向が見受けられるので、保健センターや教育委員会に相談したこともありますが、中村先生のお話を拝聴できて「ほめて育てる」初心を忘れていた自分に気づかされました。
- ★今日、中村先生のお話を聴いて、少し肩に力が入っていた自分に気がつきました。考え方ひとつで楽になる・・・それが大切なんですね。専門の先生のお話も機会があれば、まだまだ参加してみたいと思います。

ありがとうございました

